

景気変動と経済政策

1 / 1

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

景気はなぜ変動し、政府や日本銀行はどんな対策をとるのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 景気変動

好況・不況

景気

経済全体の活発さ。好況と不況がくり返される。

インフレーション

物価が継続して上がり続けること。

デフレーション

物価が継続して下がり続けること。

経済は、いつも同じ調子で動くわけではない。商品がよく売れて生産が増え、働く人の賃金も上がる好景気(好況)になると、やがて売れ行きがにぶり、生産が減って失業者が増える不景気(不況)になる。このように**景気**が良くなったり悪くなったりすることを景気変動(景気循環)という。

景気と深く関わるのが物価である。物価が継続して上がり続けることを**インフレーション**(インフレ)といい、同じお金で買える物が減る。逆に、物価が継続して下がり続けることを**デフレーション**(デフレ)という。デフレでは企業の利益が減って賃金も下がりやすく、不景気とともに起こる悪循環におちいることもある。景気の波は、新しい技術の登場や海外の経済のようすなど、さまざまな原因で生まれる。

状態	物価	賃金・雇用
好景気	上がりやすい	賃金・雇用が増える
不景気	下がりやすい	賃金・雇用が減る

2 政策と為替

金融政策・円高

金融政策

日本銀行がお金の量を調節して景気に働きかける政策。

財政政策

政府が税や公共事業で景気に働きかける政策。

為替相場

円と外国のお金を交換する比率。

日本銀行は、おもに**国債**を売買する**公開市場操作**で、銀行のもつ資金の量を調節する。不景気のときは国債を買う。すると銀行の資金が増えて金利が下がり、企業が借りやすくなる。お金が出まわれば、生産や投資が活発になりやすい。好景気のときは、その逆を行う。これが**金融政策**である。一方、政府の**財政政策**では、不景気のとき公共事業を増やし、減税を行って、需要を増やす。好景気のときはその逆を行う。

円と外国のお金を交換する比率を**為替相場**(為替レート)という。1ドル=100円から80円になるのは、円の価値が上がる**円高**で、輸出企業に不利に、海外旅行や輸入には有利に働く。1ドル=100円から120円になるのは円安で、輸出企業に有利になる。

問いへの答え

景気は好景気と不景気をくり返し、物価が上がり続けるインフレや下がり続けるデフレも起こる。不景気のとき、日本銀行は国債を買って資金を増やす金融政策を、政府は公共事業や減税などの財政政策を行って景気を調整する。為替相場の変動も景気に影響し、円高は輸出企業に不利に働く。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

